

らいぶ
LIVE 創 REATOR
つくりえいたー

No.31
2006.7.1

研究広報誌

CONTENTS

夏季教科別研修会 2006 のご案内 1
 らいぶ インタビュー 「和歌山大学教授に聞く」 2
 学習紹介：「ダンボールを使った造形遊び」(図工科) 3
 学習紹介：「金子みすゞさんになろう！」(国語科) 4
 学習紹介：「武士や民衆が新しい文化を生み出す～室町文化～」(社会科) 5
 学習紹介：「バスケットボール」(体育科) 6
 学習紹介：「和食作りにチャレンジ！」(家庭科) 7
 学習紹介：「どんな組み合わせ方ができるかな」(算数科) 8

互いのまなさが響き合う学習

一人一人の
確かなみどりと支援によって

～夏季教科別研修会 2006 のご案内～

参加費：無料 (参加申し込みは、FAX でお願ひします。申し込み〆切 7月14日)

～ 今、教科のあり方が問われています。ともに、研修しませんか？ ～

7月27日(木) 9:30～12:00

社 会	みんなでいっしょに社会科の“ネタ”さがしをしませんか？ 昨年度と同様に、[ゲスト]の方を招き、「頑張っているこだわり」について教えていただきます。その後、みんなで地域教材についての単元計画を考え、社会科学習について話し合います。
理 科	『感動』体験を通して問題を解決する過程を楽しむ子どもを育てるため、実践を進めています。その実践の紹介や、和歌山市の理科教育研究会からの発表もあります。みなさん、お互いに交流しませんか。

7月27日(木) 13:30～16:00

生 活	ワークショップ形式や実習形式で行います。具体的には、低学年がコミュニケーション力を高める英語活動のゲーム等の体験や子どもが夢中になる楽しい「ものづくり」の実習です。中・高学年の先生にも十分、参考になるようにしたいと思います。
体 育	次の学習指導要領の改訂では、「到達度」がキーワードになろうとしています。子どもの今もっている力を大切にしながら、子どもたちにどれだけののびを期待するのか、そのためにどんな計画・指導をするのかをあきらかにします。いっしょに考えませんか？
複 式	複式の学級内、また全校的な取り組みにおける異学年交流のあり方や内容について。学年別で指導する国語・算数・理科・社会の年間カリキュラムや実際の授業での工夫、また課題とその解決方法について。一緒に考え合いませんか？資料もあればお持ち下さい。

7月28日(金) 9:30～12:00

算 数	低・中・高学年に分かれてのワークショップを計画しています。9月からの授業ですぐに役立つアイデアをもとにみんなで交流しませんか？ワークショップのあとは「とっておきのアイデア」「学習作りのポイント」を講師先生に教えていただきます。
図 工	前半は『“感じる”“表す”学びの連鎖』をテーマに進めている1学期の実践を含めた題材紹介、後半はワークショップを予定しています。子どもの学びを大切にしたい学習づくりについて互いに交流したり、いっしょに研修したりしませんか？
家 庭	前半では「学習を生活に生かそうとする子どもの姿」をめざして取り組んだ“和食作り”“おやつ作り”等の実践紹介を行います。後半は、授業に役立つ教材作りについて、実際に作ったり、食したり、試したりしながら、一緒に考えていきたいと思います。

7月28日(金) 13:30～16:00

国 語	前半は『初読力、伝え合い、自己変革』をキーワードに進めている私たちの実践を紹介します。後半は、グループに分かれ、ある教材について単元計画案を出し合い、ディスカッションします。子どもたちの学びが響き合うような学習を一緒に考えませんか。
音 楽	楽しく子どもに音楽の力をつける授業づくりの基礎・基本は何か。これまでの実践研究のエッセンスをお伝えします。新採 5 年目くらいまでの先生方を対象に考えています。若手教育にあられるベテランの先生方も大歓迎です。

当日受付も行っています。研修会開始 30 分前から受付になっています。部会の場所はお受付をご覧ください。

嶋田由美 先生

和歌山大学教育学部教授(音楽科教育)

SHIMADA YUMI

研究テーマ：明治期の小学校唱歌教育の実態史研究



大学と附属校～授業記録から～連携のヒント

嶋田：たぶん音楽が一番やってますよね。

江田：もう(附属に赴任して)4年になりますけれども、ずうっと学生たちが1年間近く張り付いたときもありましたよね。

嶋田：ゼミ生のK君たちが4年生のときでしたから先生が2年目。学生たちが毎週月曜日にビデオ・カメラ2台を持って附属に行き、それを全部ビデオテープ起こして先生のところに(授業記録を)お送りしましたね。撮ったビデオを私たちは大学で分析。「今日の先生のねらいはこれだろうか?」とか「子どもたちがこれだったから、先生がこう言ったね」とか授業研究をしました。で、ときどき先生にコメントを頂いたりしていました。

江田：見事に試験受かって先生になっている学生もいますね。

嶋田：はい。ちゃんとあの学生たちは先生になって頑張っています。すごい指導技術を盗むっていうことと教材の扱い方、テクニックを見る経験もしました。

江田：彼らも課題をもって来ていましたからね。「“聴かせて育てる”とはどういうことなのか」というふうなこととか。

嶋田：その折々に先生にいろいろお話をして頂いて。「いまのねらいはこうだったんだよ」とか。あとTAみたいな形でちょっと入らせて頂いたでしょ。鍵盤ハーモニカとかね、低学年なんて滅多にかかわれないのに、ああいうときにアシストさせて頂いていたので現場に出てすごく役立っていると思うんですよね。すごくいい連携…。

江田：おもしろかったですね。

嶋田：そういう連携が作れるんですよ。大学と附属校は。努力をお互いしていかなきゃいけないですよ。せつかくいいこういう環境にあるのですから。

江田：考えてみれば、その学生たちから私に頂いた授業記録のレポート類、これが棚一杯あります。すごい量です。

嶋田：そうですよね、きつとね。すごいもの。全部先生が笑ったところまである。

江田：(学生の感想に)「何でこれくらい1時間でしゃべるの。」

嶋田：そうそう「A4で7枚になった」とかなんとか言ってましたからね。(笑)「しゃべり過ぎ!」とか何とか。(爆笑)

江田：それを聞いて反省しました。(笑)いい質問も頂いた。

【嶋田ゼミの学生たちの授業参観】

赴任1年目：毎週月曜日の午前中、6・4・3・1年の4コマの授業に嶋田教授と4～8人の音楽科の学生たちがやって来た。2台のカメラで(先生と子どもの)ビデオ記録を録って大学に持ち帰り、その日の午後分析・検証。嶋田先生によると「どのようにして子どもたちが聴く力をつけていくのかを追って」いたようだ。午後には5年生の2授業もあり私にとってハードな週明けだった。

赴任2年目：前述。学生たちのみ。

赴任3年目：月曜日の午前3コマの授業に大学院生6名(他ゼミ生も)が参観。すべて授業記録をとり分析。

500人分の授業記録!

嶋田：それは私がゼミ生に行ったことですね。あともう1つは「初等音楽科教育法」です。先生に大学へ1度講義に来て頂いて、その後で授業を見せて頂く。多くの学生たちにとって初めて現場を見る機会なんです。大半が2年生の後期ですから。

(《スキーの歌》《冬景色》《越天楽今様》など共通教材での授業。また、現在本学では“徒弟制・2年生実習”で本実習前に授業を参観する機会が増えている。)

江田：ぼくも嬉しかったのは、彼らが実習に来たときに授業のやろうとするレベルが高いんですよ。音楽ですがね。

嶋田：う～ん。そうだと嬉しいですね。それは先生に講義や授業を

見せて頂いて先生の授業に慣れているんですね。(参観したのは)菅先生と2人で担当する「教育法」の受講学生たちだったんですけど、学生全員に全部授業記録をとらせて…。

江田：あれはいいですね!

嶋田：いいでしょう!ものすごく真剣に授業を見るし…。

江田：頂いたレポートは、授業記録・細案の形と感想で書かれていましたね。年間150人分!

嶋田：そうです。B4用紙1～2枚にあれだけ細かく書こうと思うと、家に持って帰ってもう1回思い起こして…。一晩かかったと思うんですよ。

それを先生にお送りして。先生は全部目を通してくださって、次年度、実習に来た学生(3年生約70人)の指導に役立ててくれましたね。

江田：実習開始と同時に、頂いたレポートと実際にいま指導している学生とを1人ずつチェックしましたね。70人が同じ授業を見て書いたレポートですから、授業をどのような視点から見ているかが一目瞭然比較できます。

嶋田：「すごいなこの連関は!」って。「うまく連関できているな」って感じがあるんですね。

やはり、こういうことはやろうと思えばできるんですよ。

江田：そんなに大変なことじゃないですよ。

嶋田：全然!(笑)まあちょっと大変なのは、附属の授業に75名ずつの学生を2回に分けて連れて行って、子どもさんたちに迷惑をかけないようにと…。

江田：いやいや子どもたちには良いですよ。見て頂けるのは、「光り」が当たります。

嶋田：そう言って頂けるから、「こういう機会は使わなくっちゃ!」と思っています。

〔聞き手：音楽専科、江田 司〕
当日は沢山の興味深いお話を頂戴しました。紙面の都合で全て掲載できず残念です。

ダンボールを使った造形遊び

図画工作科
1年C組
担任 北山成美



今年度、図画工作科では「感じる、表す、学びの連鎖」をテーマに取り組んでいる。図画工作科の学習は、つくりだすことそのものが目的であり、作品はその結果として表れるものといえる。子ども一人ひとりが「感じる」ことを大切に、「感じた」ものを「表そう」とし、また、表したのから感じ、そこから思いうかんだものをつけたしたり、つくりかえたりしてまた表すという学びが連鎖する学習を目指していきたい。

本実践は、昨年度2年生の子どもたちが、ダンボールを素材として、ダンボールの家作りやお店作りに取り組んだ実践である。パソコンを入れていた大きなダンボールが30～40個空いてきたのを、クラスでもらってきて積み上げていた。子どもたちは、もう見ているだけでわくわくドキドキしていた。「このダンボールで何つくってもいいよ。」という、まず、ダンボールカッターでダンボールを切って、ガムテープでつなげて部屋作りをしたり、屋根をつけて家にした。同じような思いをもつ子どもたちが集まり、グループでの取り組みになっていった。

さらには、パソコン保護のために入っていた軟らかいクッション材や発泡スチロールをダンボールカッターで切ると、実に気持ちよく切れるので、それをひたすら切り続ける。たくさん切ったものをダンボールの家に入れて、その中に入った感触を楽しんだりもしていた。



ダンボールがよく切れるね

スパスパ切れて楽しいな



中に入ると気持ちいいよ



きれいなお部屋にするぞ



ダンボールにペットボトルや、テープや空き缶などきれいなものを貼り付けて、「お部屋のインテリア」と名付けて、美しく飾ることに興味を持ち取り組んだグループもあった。普段は、造形遊びでは、何をしたらいいかわからず、活動が進まない子ども、一人で「人動力家」と名付けて、仕組みの説明をダンボール一面に書いて、最後の発表のときは、クラスの子供たちから質問もたくさんもらい、評価されたのがすごく自信につながった。

子どもたちが興味を持って、扱いやすい素材に出合ったので、その活動は実に生き生きとし、次々と展開していった。

子どもたちが仲間と協力し、やりたいことができ、たくさんの響きあい生まれた実践であったように思う。



人動力家
ができた



大きな部屋
ができた

金子みすゞさんになろう！

～言葉のスケッチを生かして～



国語科
4年C組
大谷 真喜子

1. はじめに

本学級では、『感性を育て、言葉の力を高める』ことを大切にしています。

今、社会で盛んに言われている“言葉の力”を、情動面へのアプローチを通して高めたいと考えています。

子ども達には、ほのかなもの、弱々しくも実は逞しく存在するものなどに対して研ぎ澄まされた感性で見つめ感じ取り、感動を表現してほしいです。また、相手が伝えようとしている時は、共感の心をもって受け取り、自分と仲間が優れた言語表現者に高まろうとする、そんな4Cの子ども達に育てていきたいです。

そのために、“若き童謡詩人の巨星”と称賛された『金子みすゞ』，“ほんものの言葉”で語る『相田みつを』，両氏の作品を、国語科学習内容とリンクさせつつテーマに迫っていこうと思います。

2. 単元について

五感を通して対象物と対話し、見たこと・聞こえたこと・感じたことなどを言葉のスケッチで書き留めます。その中から自分の伝えたい思いにピッタリくる言葉を選び出し、さらに言葉を吟味し磨き“詩”を作ります。詩作途中や完成してから友達と読み味わう活動を通して、より豊かな感性や言葉の力を高めよう取り組みました。

3. 学習の流れ

金子みすゞさんの作品『土と草』を味わおう。

もしあなたがみすゞさんなら

* 何を見つめたの かあさん知らぬ草の子
ひとりで育てる逞しい土

* 何が聞こえてきたの
風にゆれる草の音
土の声「大きくなってね」

土と草
金子みすゞ
かあさん知らぬ
草の子を、
なん千万の
草の子を、
土はひとりで
育てます。
草があおあお
しげつたら、
土はかくれて
しまうのに。

詩を作ろう。(とぎすました五感と選び抜いた言葉で)

(1) 五感をとぎすませ言葉のスケッチをしよう！



(対象物と対話しに何回か足を運ぶ子どもたち)

言葉のスケッチより
小さいのち ふわふわしている
がんばっている みんなの方へ向いている
つよいね 一生けん命 きれい
わた毛をとばしてしそんをのこす
がまんづよい

(2) 言葉のスケッチを生かして詩をつくらう！

友達の詩で響き合おう！ (心に残る言葉を見つけ発表し合う)

君の作品について

は じ ま っ て い く	ま た 小 さ な い の ち が	と ば し	た ん ぼ ぼ は わ た 毛 を	う な ず い て い る	た ん ぼ ぼ も	こ れ か ら も が ん ば つ て ね	咲 か せ ら れ る ん だ	こ ん な に き れ い な 花 を	い る か ら	一 生 け ん め い が ん ば つ て	う れ し い み た い	ぼ く が 見 て い る と	い つ て い る	み ん な に 見 て み て と	ふ わ ふ わ し て い る わ た 毛	き れ い な 花	た く ま し い 葉	た く ま し い 根	た ん ぼ ぼ
---------------------------------	---	-------------	---	---------------------------------	-----------------------	---	--------------------------------------	--	------------------	---	---------------------------------	--------------------------------------	-----------------------	---	---	-----------------------	----------------------------	----------------------------	------------------

(は、線を引いた言葉)
「かっこいい。」「なんだかとても胸をはって生きているみたい。」「ふまれても何度も起きあがる強さを感じる。」「たんぼぼも人間とっしょだと感じた。」「すごいことだ。」「大人っぽい表現だ。」「小さいけどはじまっていくんだな。」「また小さな花が咲いていく。」

とぎすまそう。(詩の修正)

より深く響き合おう

育ったか感性？(学習の振り返り)
付いたか言語力？

4. 成果：“面白そう”から始まった言葉のスケッチは、『長々見つめ』『振り返り見つめ』の姿に変化してきました。“友達の詩で響き合おう！”の時間では、君の作品を中心にいくつかの作品を読み味わいました。子ども達は自分の詩に対して意見や感想が出されるたびに表情が輝き真剣みを帯びていきました。響き合いは真剣さと自尊感情を生み、共感的深まりや自己表現力への自信へと発展していく、と子ども達の姿から勇気づけられました。感性は、見えないけれどあります。私は、これからも『感性を育て、言葉の力を高める』ように努めていきたいです。『みえぬけれども あるんだよ』。みすゞさんが語りかけてくるようです。

社会科

6年A組

担任 田中 いずみ



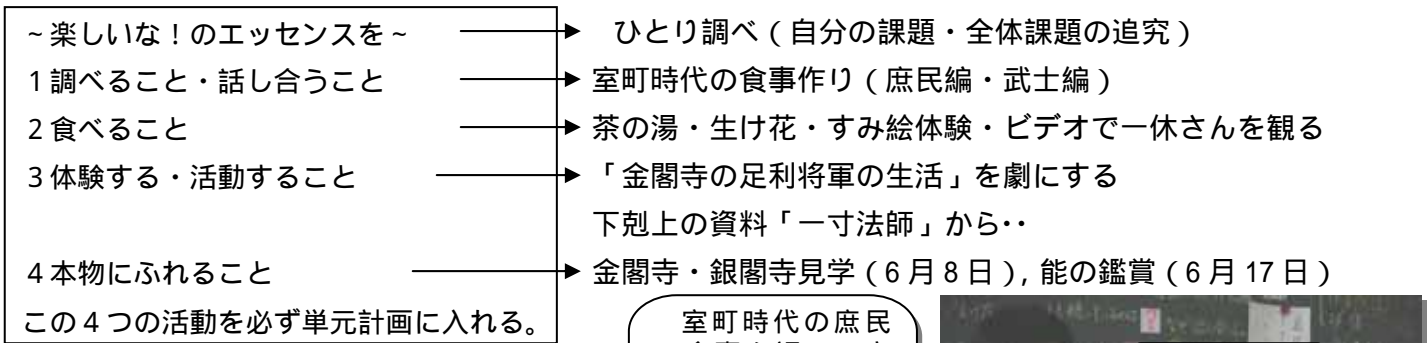
武士や民衆が新しい文化を生み出す
～室町文化～

6年生の歴史学習では、「今とのつながり・自分とのつながり」を見つけること！をテーマにしている。室町時代は教科書でもあまり扱われていない時代である。けれども自分とのつながりを考えさせるには絶好の単元ともいえる。特に室町文化が今の生活に残しているものが多く学習対象としてもおもしろいと思ったからである。また、南北朝の合一、優雅な將軍のくらし、応仁の乱、室町幕府の財政難、下剋上の始まりといった世の中の動き、そんな中で武士や民衆が中心となり生まれた室町文化を子どもたちに学習させてみたいと考えている。

子ども達と一緒に社会科の学習をするとき自分が大事にしていることがある。それは単元計画の中に「楽しいな！」と思えるエッセンスを組み込むということである。室町時代を例に考えてみると・・・

本単元を学習するときの自分のおもい

本単元で予想される楽しいエッセンス



金閣寺見学

金閣寺は名前にも金が入っているので金のはってあるのかなーと思ったのは大正解でした。でも銀閣寺は銀がはられていませんでした。「なぜかな～」と思いました。さっそく調べてみます。（6月9日）～ハテナ探しノートより～

室町時代の庶民の食事を調べて家でも作ってみました！今の食事より地味だなあと思ったよ！



調べ発表

私は能を調べています。観阿弥・世阿弥が始めたんだよ！



ひとり学習



狂言：附子

「墨で濃淡をつけるのって、とっても難しいよ。」

「さあさあ、あおげあおげ。」
「あおぐぞ、あおぐぞ。」



墨絵体験

単元の最後に「室町時代の文化 大じまん大会！」としたいと思っている。しかしよくある発表会にしたくはないと思っている。本時の全体課題として子どもたちは“室町文化が今まで続いているのはなぜだろう”という話し合いをしたいと言っている。文化は時代を反映していると思うので、室町文化を語る中で室町時代の様子や背景などが絡まった話し合いができるだろうと期待している。

5年生バスケットボール ボーナス得点をめざし みんながシュート



体 育 科
3年A組
佐々木 和哉

体育科では昨年度、「運動の楽しさを真剣に学ぶには ～機能的特性と子どもからみた特性の関係をさぐる～」をテーマとして研究に取り組んだ。ここでは、5年生でのバスケットボールの学習の実践をまとめてみた。

< 指導者の願い >

だれもが、自分から進んでボールにさわりに行き、自分からシュートができるように 積極的に活動をしてほしい。

自分だけでなく、チームのことを考えたプレーができるようになってほしい。

自チームだけではなく、相手チームとの雰囲気大切にしながら試合ができるようになってほしい。ボール運動の特性である「勝敗」と関係しながら、チーム力を高めてほしい。

学習が進んでいくと、子どもたちは様々な気持ちを持つようになった。その一部を以下に紹介する。

< 楽しいところ >

シュートをいっぱい打てて楽しい。
シュートが入るとうれしい。

< 楽しくないところ >

シュートができないから楽しくない。
パスがあまりまわってこない。
チームの雰囲気があまりよくない。

楽しくないところが、教師の願いと関係したので、よりよい学習を進めていくために、特別ルールを設定した。それが「ボーナス得点」であった。この特別ルールの内容を下記に紹介する。

< 内 容 >

1ゴールにつき1点ではあるが、チーム全員が得点すると、ボーナス得点として、3点が加算される。全員得点ごとにボーナス得点は加算される。

ボーナス得点を設定したことからふたつの面を見ることができた。それは以下のことである。

< よかったところ >

ほとんどの子どもが、めあてを持ち、楽しみながら学習をしていた。
自分から進んで活動できるようになり、進んでシュートができるようになった。
ボーナス得点を意識し、パスをまわそうとする意識を持てるようになった。

< よくなかったところ >

パスを意識するあまり、自分があまりシュートできない子どもがいた。
チームのことを考えすぎるあまり、自分のめあてをはっきりと仲間に伝えることができなかった。

< 考 察 >

特別ルールを設定したことによって、以前よりも子どもたちは、自分からシュートをしようとしたり、パスをまわそうとしたり、チームワークのことを考えながら意欲的に活動していたのがよかったと思われる。しかし、ボール運動の特性である「勝敗」と関係しながらチーム力を高めていくという点では、不十分であった。これが課題として残った。

和食作りにチャレンジ! ～みそ汁ソムリエになろう～



〔家庭科〕

5年B組

担任 藤原 ゆうこ

家庭科のテーマは、「生活を実感し、工夫する楽しさを味わう子どもを育む家庭科学習～学習を生活に生かそうとする子どもの姿をめざして～」である。自分の家庭生活からスタートし、学んで身に付けた力を日々の生活の中で生かしていくという、授業と生活との間で学びが連続していることを大切に、具体物を伴った五感を通した活動を取り入れていきたいと考えている。これは、6年生での実践「和食作りにチャレンジ」を、日本の味ともいえる「みそ汁」に着目しての授業展開である。

おいしいみそ汁を作るには？

みそ汁作りに向けて、子どもたちは調理方法調べを開始した。「みそ汁」といえば、子どもたちにとって毎日のように食している身近な一品である。「いわゆるおかず」となるもの（主菜、副菜にあたるようなもの）の調理経験はあっても、みそ汁を自分で調理した経験のある子どもは少ないというのが実態で、ほとんどの子どもはお家の人から聞き取り調査を行ってきた。

子どもたちが出した意見から、おいしいみそ汁作りのポイントは、次の3つにまとまった。

ダシをとること
(こんぶ・かつおぶし・いりこなど)
おみそを入れるタイミング
(火を止めてから・煮込みすぎない)等
具を入れるタイミング
(煮えにくいものから)等

A...みそをといてから、煮込んだみそ汁(ダシ入り)
B...ダシをとって、火を止めてからみそをといたみそ汁
C...ダシをとらずに火を止めてからみそをといたみそ汁

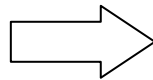
Aはおいしいけど...Bに比べると香りがまいち??
色も黒っぽいなあ...

Cは水っぽいわ～、絶対にダシなしはこれだ!こんなみそ汁の味じゃないよね!

ダシをとらないと、本当においしくないのかな?

煮込みすぎると風味が落ちて本当?

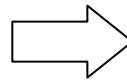
実感してみよう!



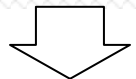
～みそ汁ソムリエになろう～
“味・香り・見た目をじっくり
テイスティング!”

「作ってみたいのはBに決定!」

おいしさの秘密を探ろう!



・ダシって何を使っているの?
・ダシのとり方はどうするの?



栄養バランスを考えた具材選び

和食の基本「白いごはんのみそ汁」に合わせて1食分の食事メニューを子どもたちは考えた。和食をイメージして、子どもたちが考えた主菜となるおかずは肉じゃが、和風おろしハンバーグ、鮭の塩焼き等。

選んだ主菜に使う食材を、緑・赤・黄と分類してみると、やはり緑の食材(特に野菜)が少ないと実感。

～子どもたちが考えたメニュー例～

みそ汁の具
ごはん、おろしハンバーグ、ほうれん草のいためもの
大根・ワカメ・とうふ・ネギ

ポイント

旬の野菜を取り入れた和食メニューで栄養満点!

みそ汁(豚汁)の具
ごはん、肉じゃが(大根・人参、糸こんにゃく、豚肉)
大根・人参・サツマイモ・豚肉・ネギ

ポイント

食材を無駄なく使うよう工夫した和食メニューで栄養満点!

互いのグループごとにみそ汁のダシをとり、試食をしい、「Aグループのおみそ汁も、なかなかおいしいよ!」「いろいろな野菜を入れた具だくさんの豚汁っていいね。」などの声。実習後、家庭で作ってみた「我が家のみそ汁」も、それぞれ好評だったようである。

「ダシのもと」になっている削り節・こんぶ・いりこの見た目・味・香りもテイスティング!



うまくできるかな?少し緊張気味...

いただきます～す!



どんな組み合わせ方ができるかな

～単元「表とグラフ」から～



算 数 科
2年A組担任
宇田 智津

算数科3年単元の「表とグラフ」では、2年生のときに習った を使ったグラフの学習を思い出しながら子どもたちの身近な生活を題材に表や棒グラフの書き表し方の学習をすすめていった。「好きなお菓子しらべ」「好きな遊び調べ」「好きなゲーム調べ」など、自分が調べたい興味のあるテーマを取り入れながら『わかりやすい』表やグラフになるように考えていった。

身近なテーマでアンケートをとり、表やグラフに表そう

アンケートはどのようにとったらいいのかな

目盛りはどうしたらいいのかな。

3つの表を組み合わせよう



4月・5月・9月の3Bの保健室利用を調べた表を見比べると、「けがの種類が同じ」「人数は違うね」など子どもたちは同じところや違うところを見つけた。そこで、「同じ部分を省略してもっとわかりやすい表にすることができないかな」と考えた。

表を縦につなぐと
どうか。

斜めにつなぐと・・・項目がわ
からなくなってしまうよ。

横に並べるとわかりや
すくなったよ。

最初、子ども達は3つの表の数を合計した。「合計をするとけがの種類が多さがすぐにわかるよ。」という意見

が出たが合計すると「それぞれの月別のけがの人数が分からなくなる。」という意見も出た。3つの表を縦に並べたり斜めに並べたり三つの表を重ねたり横に並べたりしながらわかりやすい表の組み合わせ方を考えた。

二つのグラフも組み合わせることができるかな。



グラフの組み合わせ方

「表ができるとグラフも組み合わせることができるのかな？」というつぶやきから2つのグラフの組み合わせ方を考えた。2つのグラフを縦に並べたり横に並べたりしながら2つのグラフの組み合わせ方を考えた。

いろいろなグラフの組み合わせ方を出し合ったあと「1ヶ月のクラスのけがの人数を知りたいときにはどのグラフが一番便利かな。」「2つの月を比べて項目ごとにどちらが多いかぱっと見て分かるグラフはどれかな。」など目的・場面に応じてグラフのよさが異なることを理解し、2つのグラフの便利な組み合わせ方は、場面によって変わるということを学習していった。

From Editors

トップページでご紹介しました夏季教科別研修会を7月に開催します。ふるってご参加ください。
詳しい情報は本校HPをご覧ください。

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp